

3 令和8年度 符津小学校 学校研究全体計画

研究主題 **主体的な学びを生み出す算数の授業づくり**

～数学的な見方・考え方を働かせながら 学びの愉しさを実感する～

(1) 主題設定の理由

本校では、令和6・7年度に、「小松市授業力向上研究事業（小学校算数科）」の指定を受け、「主体的な学びを生み出す算数の授業づくり」を研究主題とし、学校研究に取り組んできた。子どもが主体的に学び続けるためには、子ども自身が学びの愉しさや自己の成長を実感することが大切である。そこで、2年間に渡り、「系統性のある数学的な見方・考え方を意識した単元構想と授業展開の工夫」と「問いを生み出す4つのズレを意識した授業づくり」を重点として掲げ、「授業がかわれば、子どもがかわる！」を合言葉に、授業改善を行ってきた。

その結果、本時（本単元）において必要な数学的な見方・考え方をイメージした授業展開を意識したり、授業を構想する際には、学習指導要領ならびに「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料はもちろん、採択教科書だけでなく、他社の教科書や書籍等にも目を向けながら検討する姿が見られたりするようになった。「問いを生み出す4つのズレを意識した授業づくり」では、関西大学初等部の尾崎正彦氏の書籍や模擬授業等を通して、少しずつイメージの共有が進み、子どもの思考に沿った課題提示を意識したもののへと変容が見られた。

一方、数学的な見方・考え方について、抽象的な捉えだけでなく具体の姿をイメージするためには、教材分析や授業分析について更なる研鑽が必要であることが分かった。そこで昨年度は、従来の横のつながりに加え、1組・2組系列の部会を軸に縦のつながりを重視した研究組織に変更し、非常に有益であった。引き続き、多様な集団での教材研究の時間の確保と、それを可能にする組織体制づくりを行い、教員の指導力向上にも努めていきたい。

また、より本質的で数学的な見方・考え方につながるズレの追及や、子どもが学びを自己調整しながら主体的に取り組む授業づくりを目指し、検討・実践を積み重ねていきながら、子どもが「自分の考えが深まった！」「みんなで授業をつくり上げた！」という成就感が持てるような授業の実現を目指していきたい。

以上のことから、今年度は、研究主題を「主体的な学びを生み出す算数の授業づくり～数学的な見方・考え方を働かせながら 学びの愉しさを実感する～」とし、算数科の授業改善から主体的に学ぶ子の育成を目指した研究に取り組むこととする。

(2) 研究構想図

〈学校教育目標〉 自ら考え 仲間とともに よりよい未来を創り出そうとする子の育成

目指す児童の姿

- ・ 自分から考えて学び、学びの愉しさを実感できる子
- ・ 目標に向かって、あきらめずに一生懸命取り組む子
- ・ 他者を思いやり、協力して行動できる子

〈研究主題〉

主体的な学びを生み出す算数の授業づくり

～数学的な見方・考え方を働かせながら 学びの愉しさを実感する～

算数の授業づくり

【めざす子どもの姿】

自ら問題を解決しようとする姿 自分の学びを調整する姿 算数の愉しさを感じ成長を自覚する姿

【系統性のある数学的な見方・考え方を意識した授業・単元構想の工夫】

- ・ 授業構想シートの作成
- ・ 目指す児童の姿の明確化
- ・ 研究組織の工夫

【問いを生み出す手立て】

- ・ 4つのズレを意識した授業づくり
- ・ 子どもの問いが連続する授業づくり（ストーリーのある授業づくり）

【自己調整を促す働きかけ】

- ・ 自己調整力を意識した単元構想、授業構想

授業がかわれば，子どもがかわる！

学びを支える学習の基盤

＜教務部＞

- ・ 家庭学習がんばり週間の取組
- ・ 主体的な学びにつながる自学ノートの取組
- ・ 基礎学力定着に向けての取組
- ・ ピカピカ符津っ子週間の取組

＜生徒指導部＞

- ・ 生徒指導の4つの視点を大切にした学級・集団づくり
- ・ 「話す・聞く」の取組
- ・ よりよく関わる力の育成

＜共通実践＞

- ・ 基礎的基本的な学習内容の習得（スキルタイム計算）
- ・ 子どもたちを見取るための手立て（活用テスト、算数教材の丸付け等）

学習環境の充実

- ・ ICTの効果的な活用
- ・ 算数掲示委員会を中心とした取り組み
- ・ 数学的な見方・考え方を意識した掲示物

(3) めざす子どもの姿

- ①自ら問題を解決しようとする姿
- ②自分の学びを調整する姿
- ③算数の愉しさを感じ、成長を自覚する姿

(4) めざす子どもの姿を実現するための研究の柱

【系統性のある数学的な見方・考え方を意識した授業・単元構想の工夫】

- ・①本時における見方、考え方②ねらいを達成した具体的な子どもの姿 のイメージ
- ・たてわりの研究組織→系統性をもった授業への理解、教材研究

【問いを生み出す手立て】

- ・4つのズレ※¹を意識した授業づくり…子どもに問い（ズレ）が生まれる授業展開を工夫する
 - ①友だちとの考えのズレ…自分の考えや予想が、友だちの考えや予想と異なるとき
 - ②予想とのズレ …自分の予想とは異なる結果に出会ったとき
 - ③感覚とのズレ …子どもが本来もっている数学的な感覚とは異なる事象に出会ったとき
 - ④既習とのズレ …既習の学習内容から少しだけ発展した課題に出会ったとき

※1「算数の学校ができるまでふつうの学校が挑んだ授業改革」尾崎正彦 編著・第2 向陽小学校 執筆、東洋館出版社 2022 年 より

- ・子どもの問いが連続する授業づくり(ストーリーのある授業づくり)

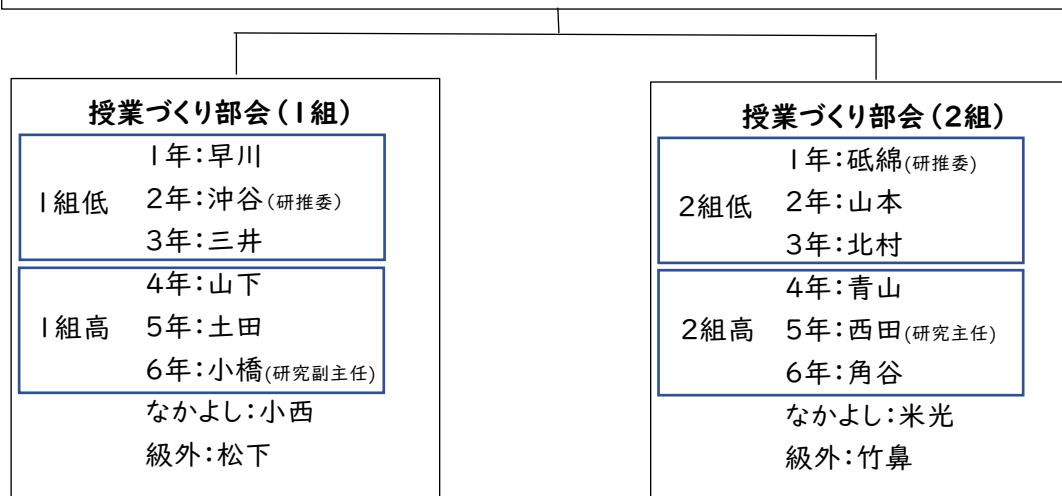
【自己調整を促す働きかけ】 自己調整して学べる子ども = 「だったら…」が言える子ども として職員で共有

- ・本時の中で、児童の自己調整しながら学ぶ姿勢につながる働きかけを意識
教師の声掛けや既習を意識した授業構成。発展統合的な授業の展開。自己選択の場の設定等
- ・単元内に位置付けで自己選択しながら学ぶ時間も設定。
→問題、方法、学習隊形など

(5) 研究組織について

<研究推進委員会>

校長・教頭・教務主任(竹鼻)・研究主任・研究推進委員(砥綿・沖谷・小橋)



※ 各学年の横のつながりをベースに、上記の組織体制で行う。

※ 全体研の場合、なかよしの先生も各組の授業づくり部会に参加する。

(6) 年間計画

月	日	研究全体会等
4	23 28	・今年度研究の共通理解 ・年間計画の確認 ・部会（担当確認，計画） ・提案授業（5の2西田）【要請訪問】 ・ブラッシュアップ授業（5の1西田）
5	21	・12組部会アイデア交流及び指導案検討（公開校内研修会に向けて）
6	15	・【公開校内研修会】 *2クラス授業公開（6の2角谷）（4の1山下） *示範授業（○の○）講師 関西大学初等部 教諭 尾崎正彦 氏 *講話 「主体的な学びを実現する算数科の授業（単元）づくり～見方・考え方を意識して～」 講師 関西大学初等部 教諭 尾崎正彦 氏 ・ブラッシュアップ授業（6の1小橋）（4の2青山）
7		・算数アンケート実施 ・計画訪問全体研アイデア交流
8		・計画訪問全体研指導案検討
9		・計画訪問全体研模擬授業
10	26	・計画訪問全体研（3の2北村） ・ブラッシュアップ授業（3の1三井）
11		・全体授業（1の1早川） ・ブラッシュアップ授業（1の2砥綿）
12		・算数アンケート実施
1		・今年度の振り返り及び研究のまとめ
2		・全体授業（2の2沖谷）【要請訪問】 ・ブラッシュアップ授業（2の1山本） ・今年度の総括及び次年度の方向性について
3		・次年度研究構想

	研究授業	ブラッシュアップ
全体①(要請訪問)	西田(5の2)	土田/西田(5の1)
尾崎先生公開	角谷(6の2)	小橋(6の1)
	山下(4の1)	青山(4の2)
全体②(計画訪問全体)	沖谷(2の1)	山本(2の2)
全体③	早川(1の1)	砥綿(1の2)
全体④(要請訪問)	北村(3の2)	三井(3の1)

- 「研究授業」
- ・○組部会の8人で指導案を検討する
 - ・指導案も長いバージョン
(尾崎先生公開は長くなくてよい)
 - ・すべて要請訪問(か計画訪問)
 - ・整理会で改善案の骨子をつくる
 - ・全員で参観
「ブラッシュアップ」
 - ・整理会の骨子をもとに
○組高/低の3人で指導案を検討する
 - ・参観は3人+同じ学年+有志
 - ・指導案は本時の改案のみ